



昭和11年11月1日 高山市市制施行

一般社団法人 高山市文化協会は、毎年テーマを変えて郷土に関する特別展を開催しています。今年から「まち博特別展」と題し、豊富な収蔵品を誇る「飛騨高山まちの博物館」のご協力を得て、郷土史料を展示いたします。

第一回として、故角竹喜登氏より高山市に寄贈され、今まで公開される機会の少なかった高山市指定文化財「角竹郷土史料文庫」の中から、「郷土の新聞」「郷土の出来事」を取り上げ、明治二十九年から昭和三十三年までに発行された新聞と、私たちの身近にあった事柄の記事について紹介します。

第二回まち博特別展 「むかしの新聞展」

角竹郷土史料文庫より

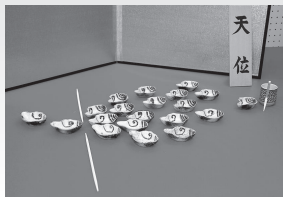
2月20日(金)～22日(日)開催

◇日時 二月二十日(金)～二十二日(日) 午前九時～午後五時(最終日は四時まで)
◇会場 文化会館三階講堂
◇入場無料

平成27年 新春飾り物展

1月16日(金)～18日(日)に開催した「新春飾り物展」には、多数の市民の皆様にご来場いただきました。審査結果は以下のとおりです。(敬称略)

●干支「未」



天位「羊群帰還」

- | | | |
|-----|------------|-----------------|
| ◇天位 | 「羊群帰還」 | 八幡鳳凰台飾り物同人(大新町) |
| ◇地位 | 「頭を下げている羊」 | 加納 進(花川町) |
| ◇人位 | 「草原の羊」 | 船坂不二夫(大新町1) |
| ◇佳作 | 「羊と羊飼い」 | 倉坪 安成(上一之町) |
| | 「牧羊犬」 | 土井 一恵(天満町6) |
| | 「羊腸の径」 | 若田 義隆(大新町1) |

●歌会始「本」



天位「写本」

- | | | |
|---------|---------|--------------|
| ◇天位 | 「写本」 | 長瀬 さゆり(森下町1) |
| ◇地位 | 「一本道」 | 星文 達守(大新町2) |
| ◇人位 | 「本場所」 | 三橋 靖(川原町) |
| ◇飾物同好会賞 | 「一本橋」 | 野澤 竜弥(冬頭町) |
| ◇佳作 | 「三本の矢」 | 瓜田 宏(桜町) |
| | 「メーソー本」 | 都竹 滋(松之本町) |

●ヤングチャレンジ部門

- ◇入賞(高山西高等学校)
- | | |
|----------|-------|
| 「シープ」 | 江崎 元 |
| 「とびだす絵本」 | 野中沙恵里 |

◇入賞(斐太高等学校)

- | | |
|------------|-------|
| 「ひつじ雲」 | 大石 創 |
| 「ミーレドレト」 | 大前さくら |
| 「羊の皮を被った狼」 | 松井かな子 |
| 「一匹・二匹…」 | 箕浦 佑樹 |

——— 来年のテーマは、干支「申」と歌会始のお題「人」です ———

「角竹喜登氏について」

一八五五年生まれ。一七歳で代用教員の職に就き、以来五十余年にわたり教育者としての道を歩んだ。学校内で郷土研究クラブを組織するなど、大変教育熱心な教師であった。

一方、郷土史の研究家として飛騨各地から多くの史料を収集し、「飛騨史壇」、「ひだびと」、「飛騨春秋」などに多くの論説・紹介等を寄稿した。

また『高山市史』をはじめ国府村・丹生川村等の村史編纂にもたずさわった。教員退職後は、高山市郷土館の初代館長に就任した。

昭和二十六年より数回にわたり、自宅土蔵に保存されていた史料を高山市へ寄贈したのが「角竹郷土史料文庫」であり、昭和三十六年十二月に高山市の文化財として指定された。

「風目(目)」

ガンモンモという筆名がいつまで経っても分かってもらえない。未だに「あれは何のこと？」と、時々聞かれて困っている。

ガンモンモとは、お寺の本堂に置いてあって、お経の時に鳴らす仏具である。大きいのはガインと打つとモンモンモと余韻が響くからそう言い、家の仏壇にあるような小さいのは、チーンと鳴るからチンモンモと言うそう。

そもそもガンモンモという言葉を選んだのは、お経の中の「響流十方」という文字に魅かれたからだ。響流というのは「こうる」と読むから、英語の「コール」(呼びかけ)に繋がるのが良いと思った。

どんな良い教えや哲学も、広く響き渡らなければもったいない。まして、せめて一目先という小さな岡目の視点では、ガンガン叩きまくらなければ聞いてもらえない。

この言葉を教えてくれたのは、ある寺の住職だが、その奥さんが「あんたはよくしゃべるで、自分の名前に困んで口数モンモつてのに変えたら？」とおっしゃった。

名は体を表すという。私は本名も口数にした方がいいような気もする。

〈ガンモンモ筆〉

文化協会
加盟団体紹介

「飛友会カメキチ」

会長
古川修二

私たちのクラブは、昭和四十九年九月に、個々の写真技術のさらなる向上を最大の目的として発足しました。会員は四十代から七十代と幅広く、アットホームなクラブです。月一回の月例会にはほとんどの会員が集まり、和気あいあいの中で相互の作品批評を行いながら写真技術の向上に努め、親睦を図っています。



内容としては、月一回の月例会、年一回のクラブ展、年数回の撮影会、文化フォーラムへの参加、陣屋ギャラリーへの作品展示がクラブ員としての参加行事です。撮影会は、近郊を中心とした日帰り旅行がほとんどですが、見知らぬ土地での様々な出会いや感動も多く、シャッターチャンスとストレス解消と一石二鳥の感もあります。近年は撮影旅行の回数も増えてきました。我がクラブでは、現在会員募集中です。気軽に参加し、カメラで自分の世界を変えてみませんか？

文化協会
加盟団体紹介

「岩畠玲子和装学院」

学院長
岩畠玲子

和装とは、広範囲にわたる事柄が多く、とても奥深いものがあります。きものを通して、着装はも

ちろん色々な知識を学ぶことができます。先人が培い残して下さった、日本人の心にもいすべき「きもの」を大切に着付けることにより、礼儀作法を学び、細やかな心配りや日本人としての心構えを養い、昔の思い出を大切にすることが出来ます。講師や生



徒らと、技術の向上のため常に研修会を行い、若い人たちに伝承していくことに強い責任を感じています。主な活動として、春秋の「飛騨高山きものさんぽ」や秋の「はちまん市」で無料着付けを行い、着物姿で高山の町を散策していただいています。また、成人式では福祉センターでチャリティー着付けを行い、その他にも外国の方々にきもの装いを体験してもらい、喜んでいただけています。学院では、普通科、専科、講師取得などで、楽しく学ぶことができます。どうぞ、ご入会をお待ちしております。

高山市文化芸術鑑賞事業

○主催 高山市・(一社)高山市文化協会 ○お問い合わせ (一社)高山市文化協会 (tel.0577-34-6550) mail@takayama-bunka.org

<笑福亭鶴光>

笑福亭鶴光(つるこ)は上方落語の名跡であり、当代は二代目。ラジオパーソナリティやテレビ出演で人気を得る。特に「オールナイトニッポン」でのパーソナリティは11年9か月に及び、歯に衣着せぬトークで関西芸人が東京で活躍するきっかけを作る。江戸と上方落語の架け橋として活躍しており、現在、東京の寄席でトリを取る資格を持つ上方落語家は鶴光のみである。

笑福亭鶴光

爆笑
寄席!

サンドウィッチマン

桂文治

<桂文治>

桂文治(ぶんじ)は江戸落語の名跡であり、当代は十一代目。桂文治の名跡は、東落語界を含めた桂一門の宗家でもある。文治は、二代目までが上方、三代目と四代目は江戸にそれぞれ居て、五代目以降は江戸に戻るが七代目はまた上方に行き、東西で歴代大看板となった珍しい名跡。平成24年に桂平治を改め文治を襲名した。

平成27年

2/26 木

午後7時開演
午後6時30分開場

丹生川文化ホール

高山市丹生川町方

チケット料金(税込) [一般] 2,500円

[全席指定] [メセナメイト会員] 2,000円

[ジュニア(18才以下)] 500円

プレイガイド

高山市民文化会館 tel.0577-33-8333

丹生川文化ホール tel.0577-78-2468

<http://www.takayama-bunka.org>

<サンドウィッチマン>

2007年のM-1グランプリ王者。コンビ名は街頭に立つサンドウィッチマンに由来。元はトリオでガリガリのメンバーが間に入っていたため、サンドウィッチのようだという事で命名した。芸風は主にコントだが、動き・小道具よりもしゃべくりにより笑いをとるものが多いため、漫才に作り変えて披露するネタも多い。M-1グランプリの際のネタも、元はコントのネタであった。自称「漫コン師」。

チケット
好評販売中